

2018 年度活動報告 CJP 授業：会話・聴解 3

浅津 嘉之（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は中級前半レベルの学習者を対象とした必修科目であり、目標は 1) カジュアルな会話とフォーマルな会話の違いを学び、会話相手によって適切なスタイルの使い分けができるようになる、2) 事実とともに感想をわかりやすく伝えることができるようになる。また、相手の意見をよく聞く態度を身に付ける、3) 日常生活の中で必要な情報を聞き取ることができるようになるである。授業は週 2 回（1 回 90 分）全 28 回であり、教科書は『聞いて覚える話し方 日本語生中継 初中級編 1』（ボイクマン 総子・宮谷敦美・小室リー郁子、2006、くろしお出版）（以下、『生中継』）である。

2. 授業内容

授業は 3 回を 1 ユニットとした。1 つのユニットは、「リスニング」「ロールプレイ」「モノログ」となっている。最初の回である「リスニング」は、『生中継』の会話部分を使用して会話場面や内容の理解把握、重要表現や会話構成の確認などをし、最後にディクトグロスを行って視点を変えてそのストーリーが説明できるようにした。「ロールプレイ」は「リスニング」に続くものであり、「リスニング」で確認した項目を参考にロールプレイを行った。「モノログ」は、『わたしのにほんご』（杉浦千里・小野寺志津・ボイクマン総子、2011、くろしお出版）を使用し、日本語のモデルを繰り返し聞いてから自分の日本語でストーリーが産出できるようにした。このように、本授業は 3 回を 1 ユニットとすることにより、インプットとアウトプット、対話と独話がバランスよく連続的に行えるように構成した。

3. 成果と今後の課題

期末アンケートでの満足度の結果を見ると、4 クラス計 33 名のうち、「話す活動」に対しては 28 名が「そう思う」、3 名が「まあまあそう思う」、「聞く活動」に対しては 21 名が「そう思う」、11 名が「まあまあそう思う」と回答している。また、「練習の機会は十分に与えられた」に対しても 29 名が「そう思う」と回答しており、本授業は、話す・聞く力を伸ばすための活動が提供されて練習に取り組める環境を提供できていたと言える。しかし、自由記述には、練習方法や教師フィードバックのやり方などについて、少数だが各クラスで要望が出ている。そこで、今後は期間中に担当者間での話し合いをできるだけ設け、授業方法や認識の共有を図るようにしていきたい。